

WOODはGOODなGOODSです！ part ②

令和元年の今回は、紀州材でできたシンボリックな木造建築を紹介します。



7月27日(土) 串本町潮岬にオープンした「南紀熊野ジオパークセンター」です。(工期：平成30年3月16日～令和元年5月31日)

2階建の本館棟 949 m² (写真) と平屋の別棟 104 m²、車庫 28 m² からなる木造施設で構成されています。この施設には、設計の段階からいろいろ工夫がされています。

例えば、本館棟と別棟(騒音を伴う作業室)を分離することによって、本館棟の床面積を1,000 m²未滿とすることで、建築基準法によるその他建築物(準耐火等の措置不要)扱いとなり、燃えしろ設計や石膏ボード等により木部を隠ぺいする防火被覆を不要にしています。



【1階展示室から見た小屋組み現し】

この写真のように現しで紀州材(スギ・ヒノキ)が使用できます。

また、梁・桁にはヒノキの構造用集成材が採用されています。これは、スギの構造用集成材で設計すると更に断面の大きい寸法が要求されるからです。それでも、幅 120mm 梁成 700mm と断面の大きいものが、主に2階の床梁に使用されています。

他に構造材としては、無垢のスギ製材(E70 JAS相当材)、ヒノキ製材(E90 JAS相当材)も使用しており構造用集成材とのバランスにも配慮されています。

他にも、フローリングには圧縮加工したスギ材、屋根裏には無地のスギ化粧野地、カウンターテーブルやコインロッカーなどの什器類には無地のヒノキ集成材とふだんに紀州材を使用しています。

展示だけでなく、紀州材の良さも感じていただけたらと思います。



おまけです。1階の展示室に「木の国」和歌山のコーナーがあります。ここには、県内の代表的な針葉樹・広葉樹 12 種類のカットサンプルを展示しています。実はこのサンプル、当試験場の製材機械で私が加工しました。南紀熊野ジオパークセンターお越しの際は、このコーナーも忘れずご覧下さい。

(木材利用部 東山)